

AT●4NEN

あと4年 未来を守れるのは今

環境と未来を守るための
署名に参加してください

どんどん激しくなる異常気象や増える自然災害に危機感を覚えていますか？地球の将来を想像して、不安に感じないでしょうか？私たちがいま普通に暮らしているこの瞬間も、地球の気温上昇はジリジリと加速しています。そして、これまで長い間、科学者たちが警告してきた、人間や他の生き物たちが今まで通りに暮らせない未来が、すぐそこまで迫っているのです。このキャンペーンに集まる声が大きければ大きいほど、未来を守れる可能性は高くなります。ぜひ、私たちのアクションと一緒に参加してください。

署名はここから↓



HOW

どうやって問題を解決するの？

5つの要望事項



透明性

気候・エネルギー政策の見直しは、若い世代に参加させ民主的で透明なプロセスで行うこと。



削減目標

2030年までの温室効果ガス排出削減目標は、2010年比で少なくとも50%以上削減とすること。



電源構成

2030年の電源構成は、省エネを第一に石炭火力と原発はゼロ、再エネ50%以上とすること。



原子力

原子力の利用をやめ、新增設や新型炉の開発は中止すること。



確実性

不確実で環境・社会影響が懸念される二酸化炭素回収・貯留などには頼らないこと。

WHY

なぜ今動かないといけないの？

AT04NEN
あと4年 未来を守るのは今

知っておくべき
4POINTS



POINT 1

すでに1.0°C上昇

たった一度で
すでに世界中で被害が。

産業革命以来、世界の平均気温はすでに1度以上上昇しました。1度の上昇でもすでに多くの被害が出ていますが、温暖化防止の国際条約「パリ協定」で掲げられている1.5度と2度の目標の間には大きな影響の差が出ることがわかってきています。

+1.5°C
or
+2.0°C

	1.5°C	2.0°C
昆虫 生態系リスク	約 6,360人	約 19,080人
熱波 少くとも1日に1回	約 10人	約 27人
洪水リスク人口 1970-2050年	約 2人	約 2.7人
海面上昇減少 年間降水量	約 150万トン	約 300万トン

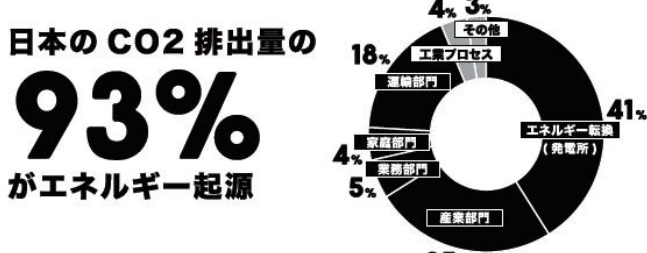
出典 | 「IPCC1.5度特別報告書」を元に作成

POINT 2

+1.5°Cに抑えるには？

解決のために
一番シンプルな方法。

日本では、温暖化の原因である温室効果ガスの排出の9割は二酸化炭素(CO2)であり、その93%はエネルギー起源です。つまり、化石燃料(石炭・石油・天然ガス)の使用を大幅に減らす必要があります。そのための勝負の時間はあと4年！



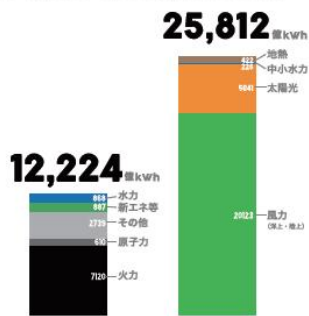
出典 | 資源エネルギー庁「日本のCO2排出量(2018)」
■ エネルギー起源CO2 □ 非エネルギー起源CO2

POINT 3

再エネ時代、到来

化石燃料から脱却するためには、温室効果ガスを出さず、環境への負荷が少ない再生可能エネルギーへの移行が急務です。日本の再エネの導入可能量は、自然条件の合う適地や事業の採算性を考慮に入れた場合でも、今の電力の2倍をまかなえると試算されています。

再エネ、
今の電力の
2倍
まかなえます。



出典 | 環境省 | 我が国の総発電量(2019年度実績)との比較グラフ

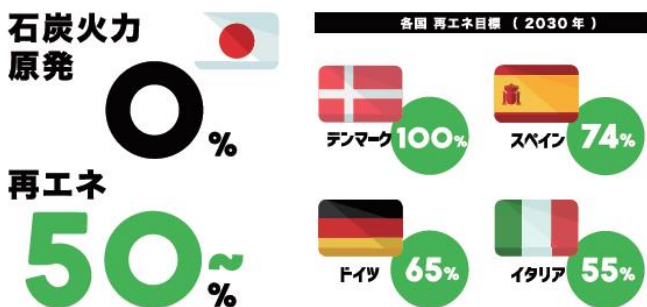
2019年 | 既設発電設備以外の発電能力を含む

経済性を考慮したシナリオ(シナリオ3)

POINT 4

次世代のために

現在、政府は今後の日本のエネルギーのあり方を決める大事な計画を見直しています。2030年時点で、石炭にも原発にも頼らず、いかに再エネ比率を増やせるかが鍵です。世界では、すでに高い目標を掲げている国々があります。



出典 | 自然エネルギー財団「脱炭素で先頭を走る欧州」等

署名で声を届けよう!

ちょうど今、日本政府は、これからの日本のエネルギーのあり方を決定する大事な作業、「エネルギー基本計画」を見直しています。化石燃料や原発などに依存してきた企業の目先の経済的利益ではなく、私たちが大切にする環境、未来を守るために、今、私たち、ひとりひとりの声を届けませんか？

発足会見を見ることができます！
日本各地の悲痛な思いに耳を傾けよう



Official Web Site
キャンペーンの詳細は
こちらから!

